

民芸運動にみる 「価値の転換」

濱田 球司

かつて民芸運動という文化運動がありました（一応今も継続中？）。民芸運動は、大正末期に思想家の柳宗悦を中心に始まり、工芸をめぐる運動でした。これは、伝統的な日用雑器に、はじめて美をみだりとした運動でした。私が関心を持っているのは、民芸運動の伝統の価値づけの仕方とその影響です。運動が注目した生産品の多くは、近代化とともに、時代遅れの不要品になりました。例えば、かつてせんべい屋のために作られていた陶器の壺は、透明なガラス容器の普及で、これに取って代わられてしまいます。運動は、このせんべい壺のような存在に注目します。それらは、元々の使い方では確かに不要品、しかし、古から伝統を基礎とした興味深い製品だ、ならば、本来の使用法から切り離して、都会の現代生活で嗜好品として使つたら面白いじゃないかと。民芸運動はこんな風に、時代遅れになつたつあった様々な工芸品を、旧来の生産と使用的文脈から切り離して、新しい生



はまだ・たくじ
人文学部日本文化学科 准教授

専攻分野は「文化地理学、地域社会文化論、工芸史」
長崎県出身
「伝統と地域をつなぐ文化研究、手工芸品の研究、
民族（遺跡）の研究」
主な著書は
「民芸と地域文化－民芸復興の文化地理学－」
（岩波文庫出版 2005）。

活のためにそのまま取り込むことで、モノに新たな意味づけを行つたのでした。「民芸品市場」という新しいマーケットの誕生でした。この市場の誕生によって、近代化に乗り遅れていたいくつかの産地は、その後進性ゆえに高い評価を得、現在まで生産を継続させることができます。この過程で、民芸運動がみせた「価値の転換」、よく考えると、これは工芸に限らず様々な場でもみられる実践でしょう。ほかにどんな「価値の転換」があるでしょうか？ 民芸運動から派生して、現代の日本社会を対象に、そんなことも考えています。



小鹿田焼のせんべい壺
(日本民芸館蔵)

日本民芸館

言葉を通じ、時空を超えた 「他者」に想像力をめぐらす

原田 直枝

私は、授業で「文学」という科目を担当しています。古今東西さまざまな文学がありますが、この授業では中国古典詩を扱います。ふつう漢詩と呼ばれ、五言絶句や七言律詩など制約された文字数と形式で知られるものですが、読み方のルール（返り点、再読文字など）や文學的な知識を身につけることが重視される場合が多く、堅苦しい印象を持つ方も多いようです。しかし授業では、詩の言葉の中に託されたメッセージの身近さとか、言葉と言葉の結びつきが醸し出す不思議な意味の広がり（言葉の化学変化のようなものと言つてよいかもしれません）、重層的な奥行き、といったものを解きほぐして示し、ふだん日本で暮らしている者ならほぼ誰もが知識を持つ漢字、すなわち異国の大文字であって日本の文字である便利な文字=記号を通じて、21世紀の私たちは、千年以上前の異国の詩人たちの日々のつぶやきとつきあうことが容易にできるのだと、受講者に実感してもらおうことをめざしています。

最近は主に7~8世紀頃の唐の詩を材料に



はらた・なおえ
総合政策学部総合政策学科 教授

専攻分野は「中国語学」「英語学」「英語圏国際文化」「日本語圏国際文化」「英語圏国際文化」「日本語圏国際文化」「英語圏国際文化」「日本語圏国際文化」
主な著書は「朝鮮人像傳」(扶桑社出版 2001)、
「抱朴子對話」(扶桑社出版 2001)。

しています。詩の舞台となった時代や社会を詩がどう映し出しているか、また杜甫や李白など特定の詩人に絞ってその詩が詩人の生き方とどう関わっているかなど、毎回のトピックにつき2、3篇の詩を用意します。時に中国語での朗誦により、伝統的な訓説調ではわからない独特のリズムに接したり、文字を手がかりに想像力を駆使して解説する努力をした後、詩の舞台の現在の映像を提示することにより、現実と想像の世界とのギャップを吟味したりもします。

正解一つを追求するという内容ではないので、当初戸惑う学生は少なくありませんが、詩との取り組みを重ねるうちに、わずかに数字の間に幾つも隠されている比喩の解釈とか、当時の日本などの比較とか、各詩の内容への共感・違和感とか、それぞれ関心を寄せる事柄をはっきり返してくれるようになります。毎回の意見・質問シートの反響を読むのは、何よりの楽しみです。

最近は主に7~8世紀頃の唐の詩を材料に



タイの王宮にて記念撮影
(上左最右端:木下登國際担当副学長)

想うとき、そこには必

ミエルカルマノ学長式によるミサ

タイの王宮にて記念撮影
(上左最右端:木下登國際担当副学長)

Feature Article

特集 WORLD WIDE NANZAN



国際化推進事業の目的

南山大学の国際化推進について2009年度ならびに2010年度学長方針の最重要課題として『「南山の国際性」のさらなる強化』『語学の南山の再生と充実』が掲げられ、この課題について、各学部・研究科がそれぞれの機能・特色に応じて多様な発展を果たしていきます。

上記の目的のもと学内募集をおこない、以下の5件が採択されました。

申請学部・研究科・研究所	取組名称
外国语学部	双方向的循環型海外実習と現地体験型外国研究推進プログラム
法務研究科	ネゴシエーションの共同開講を核とした法曹実務教育の実施
ビジネス研究科	2011年度国際ビジネス学会年次会開催とその準備事業
数理情報研究科	数理情報研究科国際化プロジェクト
南山宗教文化研究所	カリスマ刷新運動の国際的研究—基層文化と外来文化の葛藤と融合

今回は上記の中から以下の2件についてご紹介します。

外国语学部 双方向的循環型海外実習と現地体験型外国研究推進プログラム

「ドイツ・デュッセルドルフ大学と交換留学」

時:2010年11月～2011年1月(留学予定期間)

要:本学ドイツ学科における「ドイツ語実習」の提携先であるデュッセルドルフ大学から2名の学生を招待し、

ドイツ人学生と交流事業を行い、提携先大学と本学間の双方向的協力関係の構築を目的とする。ドイツ人学生との交流事業にあたっては、ドイツ人学生と本学ドイツ学科生とのコラボレーションによる共同作業

を重視する。

[共同作業例] ドイツ語科通常授業(少人数ドイツ語学講義を中心)への参加

「デュッセルドルフ大学とのインターネットを使用した遠隔授業」の発展

「ドイツ語劇(2010年11月28日開催)、ドイツ語弁論大会・贈説大会(2010年12月11日開催)」の練習への参加

参加学生の声

Christoph Bron(クリストフ・ブロン)

出身:ドイツ連邦共和国ノルトライン・ヴェストファーレン州出身

趣味:読書(日本のマンガ)、音楽鑑賞(J-POP)

日本で食べてみたいもの:お好み焼き

将来の夢:ドイツ語と日本語の翻訳士

「日本語の発音の美しさに興味があり、ドイツの大学で日本学科専攻を選択しました。日本が誇るマンガや音楽が好きなのも日本に来たかった理由のひとつです。南山大学外国语学部ドイツ学科の日本人学生と一緒に学ぶ中で一時も早く安心して勉学に勤むことができれば、本当に素晴らしいことでしょう。

上記の取り組みをはじめ、引き続き派遣・受入ともに留学制度の充実をはかり、南山大学における国際化を進めてまいります。



国際担当副学長・国際教育センター長 木下登(外国语学部スペイン・ラテンアメリカ学科教授)

「海外留学とSAFのサポート」

海外の大学に留学するにあたって、大きな心配事のひとつが、安心して勉学に打ち込める宿舎のこと、といえるのではないかでしょうか。

2010年度から、南山大学の派遣留学プログラムの中に、認定留学のホスト校紹介組織として非営利教育団体であるSAF (THE STUDY ABROAD FOUNDATION AN INTERNATIONAL UNIVERSITY NETWORK)が登場しました。SAFが加盟大学の学生に提供するサービスの一つが、英語圏6カ国とヨーロッパ4カ国に広



国際化推進本部概要

本学は国際性の点で広く地域社会から高い評価を受けているが、他大学との競合、差別化を考慮すれば、今後はさらにそれを実のあるものにしていく必要がある。そのため、2010年度より全学的な視点からその方針および具体的な計画を立案、実施、評価する組織として、「国際化推進本部」を特別委員会として設置し、全学をあげて国際化を推進している。具体的には教員・研究者レベルにおいて海外大学との双方向の交流、カトリック大学との連携強化、留学生別科の受入数の増加、留学生受入を目的とした英語(他言語)による講義開講などを検討している。

また、昨年度から予算化された「国際化推進事業」は、国際化強化策の一つであり、学

部、研究科、研究所が研究・教育を通じて、国際化を推進している。



Special events

9.16

2010年度総合政策学部 秋学期入学式

9月16日、瀬戸キャンパスにおいて総合政策学部秋学期入学式が挙行された。総合政策学部には多くの外国人留学生が在籍しているが、今年度は中国、台湾、タイ、メキシコから14名の新入生を迎えた。



9.21

本学卒業生大使表敬訪問・ 学生懇談会

9月21日、駐ラオス特命全権大使に就任された横田順子氏と駐ボリビア特命全権大使に就任された渡辺利夫氏が本学を表敬訪問された。

ミカエル・カルマノ学長など本学関係者と懇談の後、外国语学部主催で学部生・院生を対象とした懇談会が開催され、学生との活発な意見交換が行われた。



10.11

1日体験入学会

天候に恵まれ秋晴れとなった10月11日、「1日体験入学会」が名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて開催された。高校生を中心とした多くの参加者(名古屋キャンパス83名、瀬戸キャンバス90名)が、通常の授業を受講し、キャンパスライフを体験した。

「国際社会で活躍するキャリアを考える特別プログラム」を開講しており、卒業生2名の大歓迎は大きな励みになったことだろう。



10.25

第38回「父母の集い」

9月25日、名古屋・瀬戸両キャンパスにおいて第38回「父母の集い」が開催された。

三カエル・カルマノ学長、平川文洋後援会理事長(名古屋キャンパス)、加地隆文副理事長(瀬戸キャンパス)の挨拶に続き、本学担当者より学生生活、海外留学、就職状況などについて説明が行われた。また名古屋キャンパスでは、全体会に統一して尾張徳川家第22代当主・徳川義崇氏と日本文化学科・安田文吉教授による「尾張徳川家の殿様のおはなし」と題した講演会が行われた。



10.16

野外宗教劇「受難」

10月16日、名古屋キャンパスのバッヘ・スクエア舞台に野外宗教劇「受難」が上演された。野外宗教劇「受難」は今年で44回目を迎える伝統行事で、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員である学生たちによって演じられている。

第22回から野外宗教劇部長を務めるミカエル・カルマノ学長は「宗教劇に参加する学生一人ひとりの想いが南山大学の精神を具現化し、古い伝統を確実に支える原動力となっている。」という言葉を寄せた。



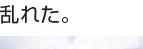
10.7

ヨシュカ・フィッシャー氏講演会

10月7日、元ドイツ連邦共和国外務大臣兼副首相のヨシュカ・フィッシャー氏の講演会が本学名古屋キャンパスにおいて開催された。

演題は「ドイツとEU、そしてEUの未来」、講演はドイツ語(逐次通訳つき)で行われた。歴史に名を刻む元ドイツ外相のアーティレクター・水谷季次氏が主宰するMERRY PROJECTの協力を得て、総合政策学部学生有志によるイベントが「自然との共生が、世界を笑顔にする。」というコンセプトのもと開催された。

約1時間の講演の後、学生がドイツ語で質問するなど、学生との間で活発な質疑応答が行われた。また、講演会終了後には、ミカエル・カルマノ学長および学生を交えての懇談会があり、学生にとっては大変貴重な機会となった。



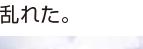
10.22

MERRY COP10 NANZAN UNIVERSITY

10月22日、名古屋キャンパス・図書館にて「秋の企画展・ミニコンサート」が開催された。

故高田三郎氏は名古屋市出身で、日本のローマ・カトリック教会における典礼史に多大な功績を残した人物である。人文科学キリスト教学・西脇鈴准教授の指揮のもと故高田三郎氏の曲が南山大学スコラ・カントルームにより合唱された。コンサートがはじまるとき、静寂に包まれている図書館に聖歌の莊厳な音色が響き渡った。

秋晴れの中、五大陸の子どもたちの笑顔がプリントされた数多くの傘が一斉に開かれ、瀬戸キャンパスでは世界中の子どもたちの笑顔の花が咲き乱れた。



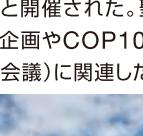
11.6-13

上智大学×南山大学 合同進学相談会@浜松／静岡

11月6日(浜松)ならびに13日(静岡)、受験生を対象に「上智大学×南山大学 合同進学相談会@浜松／静岡」が開催された。6月に開催した「上智大学×南山大学 合同進学相談会@上南戦」に引き続いでの進学相談会であった。

上智・南山両大学のスタッフ・在学生によるコミュニケーションコーナーには熱心に入試方法などについて質問する高校生とその親の列ができる。来場した高校生の一人は「静岡県を実家にもつ身としては東京の上智、愛知の南山どちらに進学しても立地的に通学しやすくて、今は同時に両大学の話を聞いて良かつた」と話してくれた。

今後もカトリック修道会を設立母体とする上智大学と南山大学合同で進学相談会を開催していく予定である。



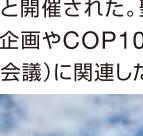
10.30-11.3

NANZAN FESTIVAL 2010 第10回聖南祭

10月30日から11月3日にかけて南山大学大學生祭が開催された。

台風の影響で10月30日は一部イベントをのぞき、中止となつたが、今年は聖南祭第10回記念であり、今までの歴史とこれまでのつながりへの感謝の気持ちを来場者に示す場でありますといふところです。

今後もカトリック修道会を設立母体とする上智大学と南山大学合同で進学相談会を開催していく予定である。



10.16

保護者のためのオープンキャンパス

2011年3月19日(土)、名古屋キャンパスにおいて、高校生の保護者を対象とした「保護者のためのオープンキャンパス」が開催される。南山大学の概要説明や保護者向け模擬授業、個別相談やキャンパスツアーなどが実施される。大学を取り巻く環境が急激に変化しつづける昨今、本学の教育への取り組みを保護者に理解してもらいたい、進路決定の一助としていただければと思われる。詳細は2月中旬に本学Webページにおいて告知の予定(開会式は、新棟にて実施予定)。



キャリア支援室

自分発見!講演会

2010年10月13日、瀬戸キャンパスにおいてCM「生前見積りしませんか?」の株式会社ティア代表取締役社長 富安徳久氏を迎えて「自分発見!講演会」が開催された。10代で葬儀の世界に入った富安氏は、「人は必ず死にます。限りある命の時間だからこそ、精一杯そして感謝して毎日を送って下さい。」と嬉しい想いを語った。「感謝は実力を倍加する打出の小槌なり」という言葉が印象的だった

た。「人は、ほんの少し心の角度を変えるだけで『感謝の心』になります。幸せを感じることができます。」と語った。「学生さんのやる気を鼓舞する」という富安氏の言葉もあり、話が進むうちに学生の目が輝いてくるのが感じられた。

キャリア入門B -キャリアを考えよう!-

2010年10月から11月にかけて「キャリア入門B-キャリアを考えよう!」が、キャリア支援室と各学部との共催で実施された。この企画は、春学期の「キャリア入門A-先輩と熱く語ろう!」に続き、学生たちが更にキャリア意識を高めることを目的としているものである。今年度も活躍中の卒業生や企業の方々を講師に招き、学部の特色を活かした講座が開かれた。各学部で開催された。各講座には、所属学部に限らず多くの学生が参加し、講師に熱心に質問する姿が多く見られた。

講座タイトル

- ・「学生生活と社会人生活」(人文学部と共に)
- ・「考古学の仕事・学芸員の仕事」(人文学部と共に)
- ・「外務省専門職員になるには」(外国语学部と共に)
- ・「監査法人ビジネス・プロフェッショナル・フォーム」(経済学部と共に)
- ・「若い人たちに期待すること」(経営学部と共に)
- ・「企業の求める人材と企業のキャリア開拓」(法律学部と共に)
- ・「今の自分」と出会うために(総合政策学部と共に)

一般常識テスト(会場受験)・職務適性テスト

2010年10月20日、就職試験の際に多くの企業で導入されている「一般常識テスト」および働く上で役立つ自分の特性がわかる「職務適性テスト」が名古屋・瀬戸それぞれのキャンパスで実施された。毎年春・秋学期に1回実施され、今回も多くの1・2年生が受験した。受験約2週間後に自分を伸ばすためのアドバイスとともに結果が返却された。次回は2011年6月実施予定。

大学生の身だしなみ講座

春学期の大学生のマイクアップ講座に続き、2010年10月27日瀬戸キャンバス、11月10日名古屋キャンバスにおいて大学生の身だしなみ講座が開催され、自分に似合うスナップの選び方や着こなし、立派振る舞い、髪型等について学んだ。

学内会社説明会

キャリア支援室では毎年、企業を招いて学内会社説明会を開催している。これは南山大学生のみを対象に企業が本学を訪れ会社説明会を行なうもので、普段学生生活を送っている大学内で実施される安心感、そして一度に複数の企業の説明を聞く便利さが大きなメリットとなっている。例年、学内会社説明会をきっかけに本格的な就職活動をスタートする学生も多い。ぜひこの機会を積極的に活用し、より満足のいく進路選択に結び付けてもらいたい。